

大雨に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

令和5年6月1日5時27分、「大雨に関する福島県気象情報第2号（福島地方気象台）」が発表されました。今後の気象情報に注意するとともに、農作物の管理には十分注意してください。

中通りと浜通りでは、2日夕方から夜遅くにかけて、前線の影響により、大雨となる所がある見込みです。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒してください。

【気象状況】

2日は、本州付近に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込むため、前線の活動が活発となるでしょう。

【予想と防災事項】

<雨の予想>

福島県では激しい雨が降り、中通りと浜通りを中心に大雨となる所がある見込み。前線が予想よりも北上した場合は、警報級の大雨となる可能性がある。

2日に予想される1時間降水量は、いずれも多い所で、

中通り	30ミリ
浜通り	30ミリ
会津	30ミリ

2日6時から3日6時までに予想される24時間降水量は、いずれも多い所で、

中通り	50から100ミリ
浜通り	50から100ミリ
会津	50から100ミリ

<防災事項>

中通りと浜通りでは、2日夕方から夜遅くにかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒してください。

【補足事項】

今後発表する警報、注意報、気象情報に留意してください。

次の「大雨に関する福島県気象情報」は、1日16時30分頃に発表する予定です。

【水 稲】

1 事前対策

- (1) 増水に備え、用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておきましょう。
- (2) 大雨により水路が増水している場合は、危険ですので近づかないでください。

2 事後対策

田植え後のほ場で稲が水没している場合は、葉先が出るように排水しましょう。

【麦類・夏そば】

1 事前対策

滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

2 事後対策

地表面に滞水が見られる場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょう。

【野菜・花き】

1 事前対策

(1) 共 通

- ア ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害が発生しやすい場所では強制排水のポンプも準備しておきましょう。
- イ パイプハウスでは、被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。
- ウ 施設では、天窓や扉があおられたり風雨が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。
- エ は種や定植を予定しているものは、天候回復後に実施しましょう。

2 事後対策

(1) 共 通

- ア 停滞水は、明きょなどで速やかな排水に努めましょう。
- イ 冠水した場合は、ほ場への出入りによって土壌の物理性が悪化しないよう配慮しましょう。ぬかるむ場合は、出入りを極力避けましょう。

(2) 野 菜

- ア 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の働きを回復させましょう。
- イ 果菜類等でネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- ウ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、茎葉に付着した砂泥は水をかけて洗い流し、速やかに適切な薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

(3) 花 き

- ア キクやリンドウ、シンテッポウユリ等の露地栽培では、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。
- イ ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

【果 樹】

1 事前対策

- (1) 水が停滞しやすい園では、あらかじめ明きよ等の排水溝や暗きよを整備しましょう。
- (2) 水害による樹体への影響は、樹勢によっても異なるので、適正な樹勢の維持を心がけましょう。
- (3) モモせん孔細菌病やなし黒星病などの病害は、降雨により病原菌の分散が助長されるので、現在発生がみられている園地や例年発生が目立つ園地では、効果のある薬剤を降雨前に散布するよう心がけましょう。

2 事後対策

長時間に渡る浸水や滞水は根や葉の呼吸を阻害し、生育不良や枯死を招くので速やかに対策を実施してください。

- (1) 滞水している園地では、明きよなどにより速やかな排水に努めましょう。
- (2) 土砂が流入した園では、根の呼吸を助けるため、なるべく早く樹冠下の土砂を取り除きましょう。
- (3) 枝葉や果実などに泥が付着した場合はできるだけ早く洗い落とし、病害の発生を防ぐため適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施してください。
- (4) 農道などに土砂が堆積した場合は、作業の妨げになるので速やかに除去しましょう。

【畜産・飼料作物】

1 事前対策

- (1) 風雨の吹き込みを未然に防止するため、畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等を行いましょう。
- (2) 開放された飼料の保管場所では、飼料をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしまししょう。
- (3) 堆肥舎は、風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しまししょう。
- (4) 停電や断水時等の対応をあらかじめ確認し、被災時には、自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう準備しておきまししょう。
- (5) 水はけの悪い草地や飼料畑には、明きよを掘削するなど、速やかに排水できるようにしまししょう。

2 事後対策

- (1) 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めまししょう。
- (2) 滞水している草地や飼料畑は、明きよなどを点検し、速やかに排水しまししょう。
- (3) 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しまししょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>